

遊

遊館便り

7

NO.302

今月のトピックス

1. 理事長より
2. 活動報告:45期開講式、災害ボランティア能登第3弾活動風景、フットサル大会
3. 寮生・訓練生の状況/今月の1枚

2024年7月20日発行 発行者:遊遊館便り編集部
住所 〒197-0011 東京都福生市福生2351-1
電話 042-553-2575



今年もあっという間に半分が過ぎました。7月はいずれも4年以上寮で暮らした寮生数名がそれぞれの道に向かって旅立つことになりました。一方で訓練生や保護者相談の問合せも増えています。10年来、社会問題となっている8050問題。近年は長期化・高齢化する前に何とかしたい!というご家族やきょうだいの思いの表れか、ご本人が10代後半から20代というお問合せが散見されます。

最近、YSCのように家庭訪問や寮での支援を行う某支援団体の代表や関係者の不祥事、未成年への対応に問題があったというニュースをみなさんご存じかと思います。社会性を育むため、家族と離れて生活する必要性を感じている親御さんも多いと思いますが、一方で“預ける”ことで支援や生活の様子が見えづらくなるというデメリットがあるのも事実です。また、家庭訪問や特に入寮には月々それなりの費用がかかるため、やはり懐疑的・批判的な意見があることも承知しています。私たちはなるべく広く寮での実態を知っていただきたいと、施設見学会の開催や遊遊館便りでの発信、随時見学も受け付けています。

寮での集団生活を通して、寮生らが在りたい姿、精神的・社会的自立を目指し、大人の階段を上るには、自身の課題と向き合う訓練だけでは不十分で、楽しいこととのバランスも重要です。作業や職場実習、イベントやボランティアといったリアルな体験を積み重ねていく中で、辛いこと、モヤモヤする感情、楽しいことを様々経験し、寮生訓練生同士、スタッフらと切磋琢磨することで視野が広がったり、気持ちに余裕が生まれたり、いい意味で欲も出てきます。寮で提供する生活と支援の場が、彼らのつまずきやメンタル不全からの回復、心と体の成長に繋がっているかどうか、が大事だと考えており、卒業していく彼らを見ていて実感するところでもあります。家族の勧めで渋々、いいえ、嫌々入寮した彼らが、自分の足と意思で卒業していく姿はなかなか感慨深いものがあります。今回卒業生全員が初めての一人暮らし。今後も大変なことはあると思いますが、「やらねば分からないこともある」これからの1つ1つが自信や力になると思います。迷わず恐れ過ぎず進んでほしいと思います。(理事長:河野)



合宿訓練45期開講!



7月1日は開講式でした。7月生は18歳~48歳までの6名で、珍しく全員都内在住の方です。

12月27日までの6か月間ですが、実は7月生は福生七夕まつり→夏のBBQ→文化祭→クリスマス会と1番イベントが盛りだくさんなのです。訓練生総勢11名。互いに切磋琢磨しながらガンバリマショー!